

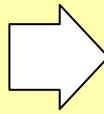
戸二小 《全授業を貫く学び合う》 授業スタンダード

「学び合うこと」の定義

授業の中で、児童が友達と、または教師や教材と主体的に関わり①、考え、表現し②、それを相互に認め合い、高め合って③理解や考え方を深めていくこと。

こう言える児童を育てましょう

- ① 「授業が楽しい・授業が好き」 学習意欲
- ② 「伝える・聞くことが好き」 表現力
- ③ 「自分が好き」「友達が好き」 自己有用感



指導のポイント

導入

児童に必要感のある問題・課題の提示

生活に結びついた身近な内容・児童の意識とずれが生じる内容・児童の学習意欲を引き出す明確な課題

展開

語り出そうとする児童の言葉に注目する「学び合いのはじまり」

「だって・・・」「でも」「えっ？」「そうか」「ああ」「なるほど」「もし」「じゃあ」「たとえば」「そしたら」 etc・・・

「学び合いを創る」コーディネート発問例

- a 予想させる 「○○さんの気持ちがわかりますか(続きが言えますか。)」
- b 再生させる 「○○さんの考えを隣同士でもう一度伝え合ってみましょう。」
- c 要約させる 「○○さんの考えをまとめられますか。(わかりやすく名前をつけましょう。)」
- d 発見させる 「○○さんの工夫しているところ(または考えの共通点)はどこでしょうか。」
- e 探らせる 「○○さんは、なぜその考えが思いついたと思いますか。」
- f 揺さぶる 「本当にそれでよいのですか。」「(わざと間違えて)これでいいですね。」
- g 修正させる 「この考えのどこを直せばいいのでしょうか。」
- h 比べさせる 「自分の考えと共通(違う)していることは何でしょうか。」
- i 気づかせる 「友達の考えで工夫している(よい・わからない)ところはどこですか。」
- j 工夫させる 「もっと簡単に(わかりやすく)できる方法はありませんか。」
- k 発展させる 「こうだったらどうなるでしょう」「別のやり方はないのでしょうか。」

児童の学び合いを生む場の設定

形態 → ペア・トリオ・生活班・全体

タイミング → 活動の見通しをもたせるため・表現に自信をもたせるため・理解度を確認するため

☆ ねらいを明確にした話し合いはもちろん、児童の反応や理解度等に応じて臨機応変に場を設定する。

1回半の学び合い活動

①伝える(発信)

- ・自分の思いや考えが相手に分かるように表現できるようにする

②聞く(受信)

- ・相手の言いたいことを読み取って聴けるようにする。
- ・自分の考えと比べ、共通点や相違点を意識して聞けるようにする

③深める・つなぐ(発信)

- ・自分の考えと友達の考えを関連付けて伝えられるようにする。
- ・自分の考えを加除修正して伝えられるようにする。



①
②
③

質問・意見



児童B

学び合いをコーディネート
価値づけ・意識付けの発問・声かけ



教師

終末

児童に教えたことほど「教えない」終末

児童に気付かせる・児童が感じとる・体得することができるように。

学習のふりかえり

本時の学習のふりかえり(理解度など)・自己評価

全員参加の授業を目指し、日々の学級づくりをしましょう！